

田中城散策コース



↑↑ 車に気をつけて歩きましょう



▲空から見た田中城



案内コース

Aコース——約5km、徒歩1.5～2時間

下屋敷 → ①馬場・馬見所 → ②新宿木戸跡 → ③新宿一之門跡 → ④新宿二之門跡 → ⑤本丸跡 → ⑥御殿跡 → ⑦大手二之門跡 → ⑧大手一之門跡 → ⑨三之堀・土塁跡 → ⑩三之堀 → ⑪姥ヶ池 → ⑫松原木戸跡 → ⑬日知館跡 → ⑭三之丸土塁・家老屋敷跡 → ⑮三之丸土塁 → ⑯平島一之門跡 → ⑰平島木戸跡 → ⑱馬上の清水 → ⑲藤井神社 → ⑳旭傳院 → ㉑東木戸跡 → 下屋敷

Bコース——約3.5km、徒歩1～1.5時間

下屋敷 → ①馬場・馬見所 → ②新宿木戸跡 → ③新宿一之門跡 → ④新宿二之門跡 → ⑤本丸跡 → ⑥御殿跡 → ⑦大手二之門跡 → ⑧大手一之門跡 → ⑨三之堀・土塁跡 → ⑩三之堀 → ⑪姥ヶ池 → ⑫松原木戸跡 → ⑬日知館跡 → ⑭三之丸土塁・家老屋敷跡 → ⑮三之丸土塁 → ⑯平島一之門跡

↓
⑰平島木戸跡
↓
下屋敷

Cコース——約2.5km、徒歩40～60分

下屋敷 → ①馬場・馬見所 → ⑯平島一之門跡 → ⑭土塁 → ⑬日知館跡 → ⑨三之堀・土塁跡 → ⑩三之堀 → ⑧大手一之門跡 → ⑦大手二之門跡 → ⑥御殿跡 → ④新宿二之門跡 → ③新宿一之門跡 → ②新宿木戸跡 → 下屋敷

●**松原木戸**：慶長6年(1601)、田中城主となった酒井忠利は外堀を増設するとともに、藤枝宿から田中城へ通じる大手道を設けました。これを藤枝口といい、道の両側に松を植えたので城の入口を松原木戸と呼びました。

●**姥ヶ池**：きれいな水が今でも湧き出しています。ここから木や竹で作った水道管を城内まで延ばして上水道を引いていました。

●**本丸跡**：田中城の外曲輪は丸く回っていましたが、本丸は四角形をしていました。現在は西益津小学校が建っています。

●**新宿木戸跡**：「しんじゅく」とよみます。川を境にして北側が城内、南側の新宿にも侍屋敷が広がっていました。

●**御成街道**：葉梨川に架かる八幡橋で東海道と分かれ、平島木戸に通じる1.7kmの道です。藤枝宿側の大手口が開かれるまでは田中城に入る正式な道で、城主がこの道を使ったことから御成街道と呼ばれていました。

●**平島一之門跡**：江戸時代になると城への道は、平島口から藤枝宿へ通じる藤枝口へ移りました。これから平島一之門は「開かずの門」とも呼ばれました。

●**馬上の清水**：徳川家康が鷹狩りをしていたとき、どの乾きをうるおすためこの水を家臣に汲ませました。そして、馬に乗ったまま水を飲んだのでこの名がついたといわれています。

●**三之丸土塁と家老屋敷跡**：田中城の三之丸を取り囲むように築かれたのが、三之丸土塁です。記録によれば、総延長544間(約980m)ありました。三之丸には、田中藩本多家の家老屋敷3軒の広大な敷地がありました。この場所は、本多家譜代の家老・馬淵新右衛門の屋敷跡に当たります。

た なか じょう
田中城

今から500年ほど前、今川氏の命令を受けた地域の有力者・一色氏が屋敷を拡大して城としたのが始まりと伝えられます。その後、駿河を領地とした武田氏により三之曲輪までが整備され、江戸時代初めには円形の堀が増設されて直径約600mの丸い城が完成しました。現在、西益津小学校のある場所が本丸跡で、西益津中学校の場所に藩主の屋敷があり、政治を行う場所である御殿が建っていました。江戸時代には4万石ほどの譜代大名が藩主となり志太平野の村々を治めていました。しかし、明治維新で田中城は廃城になり、城跡も民間に払い下げになりました。

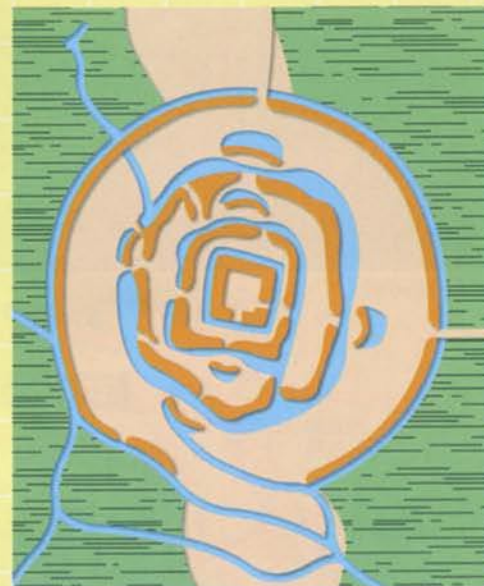
田中城の変遷(推定)



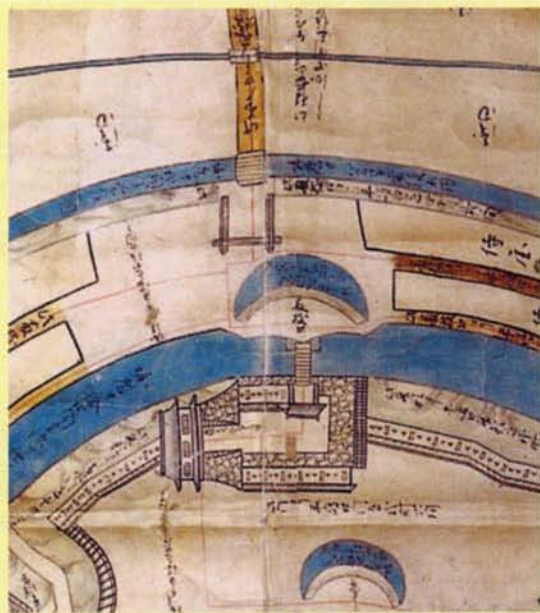
15~16世紀(今川氏の時代)



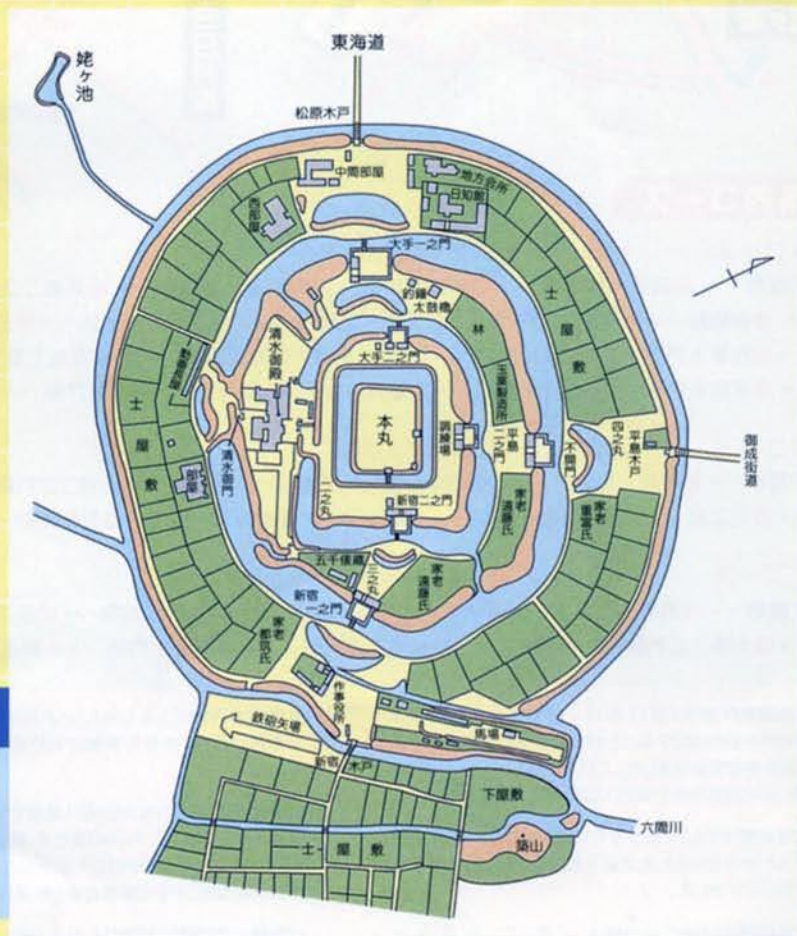
16世紀後半(武田氏の時代)



17世紀前半(江戸時代)



松原木戸と大手一之門



幕末ころの田中城

この田中城復元図は「田中亀城図」(大慶寺蔵)、「田中城内外之図」、明治時代以降の地積図・測量図および航空写真に現れた地割などをもとに復元したものです。